

「家がいいね」 第234号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023. 11. 8



いっこうに寒さの気配がなくても木々の冬支度は始まっています。私は四季の中で冬が好きです。高村光太郎の詩を紹介です。
きつぱりと冬が来た
八つ手の白い花も消え
公孫樹(いてぶ)の木も
箒(ほうき) になった

きりきりともみ込むような冬が来た
人にいやがられる冬
草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た

冬よ 僕に來い、僕に來い
僕は冬の力、冬は僕の餌食(えしき)だ

しみ透(とほ)れ、つきぬけ
火事を出せ、雪で埋める
刃物のやうな冬が来た

身も心も、お引き締め下さい。

見る目、見える目、どっち？

数学者の岡潔さんの教育論に
目が留まりました。生まれて、
40日間目は目が見えていない。
口唇で乳房に触り、音で探る
のみです。母の顔を見て笑う
のは40日過ぎ、見える能力
の目になった時と思われます。
60日経つと、他人の顔と
認識する**見る目**が出て、二つ
を使い分ける成長、なるほど。
3歳までは、知識を次々と
海綿のように吸い取って成長
する時期。なんでも**見える目**



があるから可能になるようです。童心こそが心の
芯だと思えます。この子らが、多難な世間に出て
いく時情緒ある大人に包まれてほしいものです。
人を**見る目**を育(はぐく)みたいのは、生きるこの
世界が無明だから。実りある教育が必須なのです。
しかし小学校低学年での元気な声が段々低くなり、
高学年では口ごもるようになる現実、残念です。

実は「コロナ騒ぎ」で失われたものとは

当たり前だった人と人の
接触が一切禁止になり、
写真のように歪んだ工夫
を強いる人もおり、情け
ない時間が続きましたね。
いまだに病院や施設の
面会制限は解けないまま。
感染防御で「命に係わる」
として患者さんや家族の
人権が制限され、医療者
優先の決定が進行します。
会えない苦しさは在宅
相談で表明され、社会的
支援が失われたと気付く。



医療が開かれたものになるためには

医療関係者が、相手の言葉を
ちゃんと聴き取るのがまず一番。
そして5歳の子でも納得する
説明ができる能力が、二番です。
(言い方自体が大事ですから)
ウソの少ない関係が三番の課題。



1月からよろしくね

臨時と年末年始の、外来休診のお知らせ

11月24日(金)
11月25日(土)
研究会で休診です。

正月期間の休みは、
12月28日から
1月4日です。

在宅の患者さんには、
この間も対応します。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可